

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175200104		
法人名	有限会社 エボック		
事業所名	グループホーム ひかり館		
所在地	北海道網走郡大空町女満別中央37番地23		
自己評価作成日	令和6年2月29日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0175200104-00&Se
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・「個人を尊重する感情豊かな生活」「心身ともに健やかな生活 想像、創造する」「地域との交流を生かす」を基本理念として、日々の支援を行っている。 ・利用者様は職員と一緒に塗り絵やパズル等を楽しむなど、その時々利用者様の思いを尊重しながら対応しております。 ・ご家族様とのつながりを大切にしており、毎月利用者様の状況報告や日頃のご様子などを通信に個別に記載して送付したり、必要な時には利用者様の状況を電話連絡したりしております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームひかり館は平成17年開設で平屋1ユニットの事業所となっています。「個人を尊重する感情豊かな生活」「心身ともに健やかな生活 想像、創造する」「地域との交流を生かす」を基本理念としています。コロナ禍の中で書面式の職員会議を令和5年度では対面会議を取り入れ、会議で職員の活発な意見協議し利用者の生活改善に繋げ支援に努めています。月2回の訪問看護師が利用者の健康管理を行い利用者家族の安心に繋げ、利用者の1年間の目標や行事・生活状況の写真を掲載し個別通信を毎月送付し信頼関係を築き家族の楽しみとなっています。コロナ感染予防対策の為、敷地内での散歩やベランダ、ベンチでの日光浴で気分転換を図っており、長い廊下を歩行運動している利用者やスクラッチアートやパズル、塗り絵、貼り絵等思い思いに過ごしています。基本やりたいことを主に利用者個々のペースを大切に利用者本位となるように職員一同取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を館内の職員が見える場所に掲示し、理念に基づいたケアの実践に努めている。	理念は職員に振り返りを目的に目につく場所に掲示しています。職員は利用者の希望や意思に合わせて支援に努めています。理念は通信に記載し利用者家族に周知しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件上、地域との交流が難しく、また感染症の流行や人員不足の影響で施設外への外出・交流が困難な状況が続いているが、地元美容室に来ていただくなど、可能な限り交流の場を広げられるように取り組んでいる。	新型コロナウイルスが5類に移行しましたが、感染予防対策のため地域との交流は出来ていませんが、町内会長に運営推進会議議事録を郵送し事業所の理解・周知に努めています。農協の婦人部から毎年うどんやタオルなどの差し入れがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症や人員不足の影響で実施できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染症の影響で、運営推進会議は書面にて実施しており、資料送付させて頂いている。	運営推進会議は感染予防対策のため書面での報告となっており利用者状況、事故報告・ヒヤリハットなどの議事録は家族、町役場担当者、町内会長、民生員に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議等には参加できていないが、入居者の状況等の情報共有は行っている。	町役場担当者は運営推進委員であり、利用者や事業所の状況について適切なアドバイスや協力を頂きながら良好な関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、内部研修等の実施により、職員の身体拘束への理解を深めている。	身体拘束防止及び高齢者虐待防止の委員会は職員全員が委員となり、作成した指針を基に職員への周知と理解に努めています。委員会後は生じやすい事例や介護の振り返りを基に研修・勉強会を開催しています。	身体拘束廃止に向けた委員会の議事録と研修実施記録の区別が明確になるような保存の仕方を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修などで、虐待や不適切なケアについて学んでいる。また、職員同士で虐待を見過ごすことが無いよう注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在日常生活自立支援事業や成年後見制度を必要とされている方はいないが、今後機会があったときにスムーズに活用できるよう準備する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約・改定等の際にはわかりやすく説明するように心掛け、都度ご家族様から疑問点・不明点がないか確認を取りながら実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で意見や要望があった際には、職員全員に内容を周知してもらうようにしている。	面会は5類以降、流感時は制限を設け、それ以外は居室にて制限なしで実施されており利用者の笑顔が増えています。個別通信は利用者毎の年間目標や活動状況などが掲載され利用者家族の信頼・安心に繋がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の中で、職員の意見や提案を聞く機会を設けて反映に繋げている。また、日々の申し送り等から挙がった意見や提案も検討し反映に繋げている。	対面式で年6回ほど会議が開催されカンファレンスを中心に行事や利用者の生活改善について活発な意見や提案があり協議・検討され実施しています。	内部研修の計画を立て実施することで職員のスキルアップに繋がる事を期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況等を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。また、社会保険労務士に相談し、給与水準や労働時間の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は実施している。外部研修に関しては、感染症や人員不足の影響で実施できていないが、外部研修に参加する機会を設けられるようにしたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入することで、ネットワーク作りやサービスの質の向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えや要望に耳を傾け、疑問・不安等の解消に努め信頼関係づくりに努めている。安心して施設で生活を送れるように、ご家族様とも情報共有・関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談から申請、契約、入居までの間に、ご家族様との話し合いを実施し、不安点・要望を随時確認している。また、面会に来られた際にも近況報告等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの不安に加え、ご本人様の入居前の生活状況や生活歴等の確認を行い、必要とされている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、同じテーブルでの食事や日常会話等を一緒に行うことによって、暮らしを共にする者同士の関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会や来訪時に近況報告を行い、意見や要望を伺いながら、共に本人を支えていく関係を築いている。また、来訪困難なご家族様にも病院受診の結果や月一回の通信で近況報告を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけではなく、ご本人様がこれまでに大切にされてきた馴染みの方が気軽に面会に来て頂けるような環境づくりに努めている。	利用者のお墓参りや外食・買い物等は家族の協力の基支援に努めています。新聞の購読、本や雑誌等は家族の差し入れが定期的であり、中には家族から利用者の携帯に電話して会話をされる方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように、食事の席等を考えて入居者様同士の関係が良好に保たれるように支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、必要に応じていつでも相談を受けることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話や様子を観察し、一人一人の意向や希望の把握に努め、本人の希望に添える支援ができるように心掛けている。	入居前の生活歴を把握し希望を聞き取り、現状の把握と共に出来ること出来ない事を日々の変化に合わせ支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に必ず訪問調査等を行い、ご本人様・ご家族様にお会いして生活状況・生活歴・生活環境・これまでのサービス利用の経過等を確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の日常の過ごし方や起床時・食事時・トイレ時等の状態を見て、現状の把握に努め、生活記録や申し送り等を活用して、職員間で情報交換・共有を行い現状把握ができるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングを行い、課題やケアについて、本人、家族、スタッフと話し合い、それぞれの意見やアイデアを聞き入れながら介護計画を作成している。	毎朝申し送りノートで生活の様子や状態変化を把握し職員会議で利用者のカンファレンスや3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎のアセスメントを行っています。基本1年に1回の見直しを行い、利用所の状況変化が生じた場合はその都度見直しを行っています。	職員一人ひとりが利用者の生活改善を図る目的で介護計画が作成されている事を理解し意識する事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々生活記録を残して、それをもとに職員全体で情報交換・共有を行い、ケアの実践の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに、ご本人様、ご家族様、職員でどのような支援が可能なのかを検討して、柔軟な支援・サービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の美容室に来ていただくなど、今後も利用可能な地域資源を活用しながら、入居者が安全で豊かな暮らしを楽しんで頂けるように努めていく。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様が希望された医療機関に受診しており、かかりつけ医には常に状況報告を行っている。また、緊急時にも対応して頂けるような体制を整えている。	町内の医療機関をかかりつけ医としている方や往診を利用されている方もおり家族、事業所で対応しています。歯科は必要に応じ通院及び往診の支援を行っています。月2回の訪問看護師による利用者健康管理が行われ利用者家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護の際に、健康状態の把握、気になる症状を相談し助言を頂き、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された際は、最近の状況等を記入した添書を作成し、医療機関に提出している。また、ご家族様の了承を得て、入院中の医療機関との情報交換に努め、退院後も情報共有に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設でどの状態まで支援可能かをご家族様に十分に説明し、入居者様の状態に合わせて医療機関や他施設の関係者と共に支援に取り組んでいる。	入居前には口頭で看取りを行わない旨を利用者・家族には説明しています。重度化した場合における指針を作成し、今後は入居される利用者・家族に説明し文書で了承を得る予定となっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症や人員不足の影響で、外部での講習等には参加できていないが、内部研修等で利用者の急変や事故発生時に備えられるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施し、昼夜問わず利用者を避難誘導できるように努めている。	年2回の火災避難訓練は、消防立会いのもと昼夜想定で利用者の安全を確保するため実施しています。停電対策として発電機を設置し、懐中電灯やランタン、コンロ等が準備されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定例会議等で人格の尊重やプライバシーの確保について確認している。また、言葉遣いには特に注意し、個々を尊重した言葉遣いで支援している。	基本苗字・名前で○○さん付けで呼んでいません。居室やトイレなどは必ず合図をして声を掛けてから入室しプライバシーに配慮するよう心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者様が思いや希望を表せるような環境づくりを心掛けており、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースを大切にし、利用者様の希望に沿った支援を行えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援が必要な利用者様には、声掛けをして身だしなみや衣類の選択等の支援を行っている。また、支援をあまり必要とされていない利用者様には、本人の意向を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食に力を入れて提供させて頂いている。また、利用者様に可能な範囲で調理の下ごしらえ等を手伝って頂いている。	献立は管理者が1週間分を作成し職員が調理し、利用者と一緒に食事をして食欲等を把握しています。野菜の皮むきやねぎを保存するための新聞包みなどの手伝いをお願いしています。行事や季節もの(おはぎ、甘酒等)や手作りのホットケーキを提供することもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を個々に記録しており、必要量を確保できるように支援している。接種が難しい時は、ご家族様と相談して好みの物を用意したりして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員の声掛け又は支援により口腔ケアを実施しており、個々の状態にあった支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な利用者様には、一人一人の能力や排泄の習慣を活かして、トイレでの排泄を継続できるように支援している。	昼夜問わずトイレでの排出を基本に、利用者の多くの方が自立しています。夜間は安全性の為ポータブルを使用する方がいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の排便状況を確認して、飲食物の工夫や運動の働きかけ、病院と下剤の相談をしながら、個々にあった支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意思を可能な限り尊重し、気分が乗らない時には日時の変更を行うなど、柔軟に対応している。	週2回を基本とし、入浴剤を使用したり職員と会話してゆったりと入浴を楽しめるように入浴を支援しています。見守りながら一人で入浴する方もいます。入浴拒否の場合はタイミングを図って誘導や職員・日程変更を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の生活習慣や身体状況に応じて入床を勧めて、休息をとって頂くようにしている。室温・湿度の調整も行い、安心して休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった場合には、受診記録や申し送りに記載して、職員間で周知を徹底している。服薬介助時は、職員同士で声に出し利用者様の名前を確認して誤薬のないように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様同士が楽しく会話等をしたりできる環境づくりに努めている。また、洗濯物の片付けや掃除等のお手伝いをして頂くことにより、個々の力を活かした役割を担って頂く支援をしている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に合わせて外気浴等は実施している。外出については、感染症等の影響により実施できていない。	コロナ感染予防対策の為、敷地内での散歩やベランダ、ベンチでの日光浴で気分転換を図っています。室内で廊下を歩く利用者もおり、中には家族と家で食事をする利用者もいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理能力等を考慮して、利用者様・ご家族様と相談しながら、希望に応じて金銭を所持して頂くこともできるように支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様からの申し出があれば、電話をかけられるような環境づくりに努めている。また、手紙が届いた際は、希望があれば返事を出せるように支援している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースについては、落ち着いた配色、分かりやすい表示・動線になっている。季節感を感じられる飾りつけ等を利用者様と一緒に作成して飾っている。	共同空間には、季節感のある作品や行事等は利用者と職員と一緒に作って飾っています。心地よい生活ができ不快な思いをせず穏やかな日常を送っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いの場所で、休息されたりテレビをみたり、パズルや塗り絵等で遊ばれたり楽しんでおられる。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際には利用者様の使い慣れた家具等を持ち込んで頂くようにしている。入居後も家具の配置等は利用者様と一緒に考え、居心地良く過ごせるように配慮している。	居室には収納し易いクローゼットが配置されています。使い慣れたテレビやタンス、椅子などが持ち込まれ、位牌や縫いぐるみ、孫・家族の写真、自作のスクラッチアートが飾られその人らしい過ごしやすい環境となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の身体・認知機能にあわせて、車椅子の自走や歩行器の使用を安全に行ったり、居室やトイレ等の貼り紙などを利用者様の目線に合うよう配置して、自立した生活が送れるような環境づくりに努めている。			